

令和6年度

学 習 の シ ラ バ ス

学習の内容やアドバイス

聖 光 高 等 学 校

単位制通信制課程

山口県光市9丁目22番1号

T e l	(0 8 3 3) 7 2 - 7 0 7 0
F a x	(0 8 3 3) 7 2 - 1 3 0 8
メール	st@seiko-h.ed.jp

R6 シ ラ バ ス 目 次

			ページ
1 国語	①現代の国語	前（1年次必修）	1
	②言語文化	後（1年次必修）	2
	③文学国語	前後（2年次選択）	3
	④古典探究	前後（3年次選択）	4
	⑤国語演習A	後（2年次選択）	5
	⑥国語演習B	前（3年次選択）	6
	⑦国語演習C	後（3年次選択）	7
	⑧基礎国語	前（1年次選択）	8
2 地理歴史	①地理総合	前（2年次必修）	9
	②歴史総合	後（2年次必修）	10
	③日本史探究	前後（3年次選択必修）	11
3 公民	①公共	後（2年次必修）	12
	②倫理	前（3年次選択必修）	13
	③政治・経済	後（3年次選択必修）	14
4 数学	①数学Ⅰ	前後（1年次必修）	15
	②数学Ⅱ	前後（3年次選択）	16
	③数学A	後（2、3年次選択）	17
	④数学B	前（3年次選択）	18
	⑤基礎数学	前後（1年次選択）	19
5 理科	①化学基礎	前（1年次選択必修）	20
	②生物基礎	後（1年次選択必修）	21
	③科学と人間生活	前（2年次選択必修）	22
	④地学基礎	後（2年次選択必修）	23
	⑤化学	前後（3年次選択）	24・25
	⑥生物	前後（3年次選択）	26
	⑦地学	前後（3年次選択）	27・28
6 保健体育	①体育A・B・C	前後（3年間必修）	29
	②体育R(理論)	後（1年次必修）	30
	③保健	前後（1年次必修）	31
	④野外活動	前後（2、3年次選択）	32
7 芸術	①音楽Ⅰ	前後（1年次選択必修）	33
	②書道Ⅰ	前（2年次選択必修）	34
8 英語	①英語コミュニケーションⅠ	前後（1年次必修）	35
	②英語コミュニケーションⅡ	前後（2、3年次選択）	36
	③英語コミュニケーションⅢ	前後（3年次選択）	37
	④基礎英語	前（1年次選択）	38
9 家庭	①家庭総合	前後（1年次必修）	39
	②保育基礎	前（2年次選択）	40
	③フードデザイン	後（2年次選択）	41
10 情報	①情報Ⅰ	前（2年次必修）	42
	②課題研究A	前（2年次選択）	43
	③課題研究B	後（2年次選択）	44
11 福祉	①社会福祉基礎	前（2年次選択）	45
	②生活支援技術	後（2年次選択）	46
12 商業	①ビジネス基礎	前（3年次選択）	47
	②ビジネス法規	後（3年次選択）	48
13 総合	①総合的な探究A	前後（1年次）	49
※卒業までに	②総合的な探究B	前後（2年次）	50
3単位以上	③総合的な探究C	前後（3年次）	51

年度	R6	教科「科目」(単位数)	現代の国語(2)	年次	1	添削指導	前期6回
使用教科書 (発行所)	新 現代の国語(三省堂)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。						
回	面接指導計画の概要						
1	「届く言葉、届かない言葉」 鷲田清一 伝え合い(コミュニケーション)に大事なことを考える・実用的な文章の特徴(電子メール)						
2	「ひとまず、信じない」 押井 守 情報はつくられる・メディアとのつきあい方						
3	「防災学をつくる」 矢守 克也 共生・環境						
4	「水の東西」 山崎 正和 表現テーマ例集「文化」						
5	「檻の中の“街”」 安田 菜津紀						
6	「ありのままの世界は見えない」 田中 真知 ・「ものとことば」 鈴木 孝夫 言葉で世界を豊かに						
7	学習のまとめ テスト対策						
評 価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。						40%
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。					レポート・スクーリング	20%
履修者へのメッセージ							
この科目では現代の論理的な文章を学習します。1回ごとの内容が広いため、スクーリングの前には必ず本文を読んで予習をしておきましょう。レポートではさまざまなテーマで自分の考えを書くことを通して言葉の力を身につけていきます。レポート作成は時間がかかりますので、早めにとりかかりましょう。スクーリング時には、必ず教科書・レポートを準備しておきましょう。							

通信制課程 授業計画表

年度	R6	教科「科目」(単位数)	言語文化(2)	年次	1	添削指導	後期6回
使用教科書 (発行所)	新 言語文化(三省堂)			学習書 (発行所)	なし		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。						
回	面接指導計画の概要						
1	千年の時が与えてくれる安堵(現代の随筆) 枕草子(古文・随筆)						
2	羅生門(近代の文学)						
3	伊勢物語(古文・歌物語) 和歌十首(小倉百人一首)・短歌七首(近代・現代の短歌)						
4	故事二編「虎の威を借る」「朝三暮四」(漢文)						
5	漢詩四編(漢詩) 論語八章(漢文)						
6	平家物語(古文・軍記物語)						
7	学習のまとめ テスト対策						
評 価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。						40%
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度をもとうとする。					レポート・スクーリング	20%
履修者へのメッセージ							
「言語文化」という科目は、今まで読み継がれてきた優れた古典作品や明治以降に発表された文学的な作品を読み味わいます。昔の人々も、現代に生きる私たち同様、様々な思いや考えを歌や文章に託し、表現してきました。それぞれの時代の人々の感じ方や考え方を理解し、自分を見つめ直し、今に生きるヒントを得て、一人ひとりが言語文化の担い手であることを自覚しましょう。教科書本文にリンクするページでは学習を深めることができます。活用してみましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	文学国語(4)	年次	2	添削指導	前期6回 後期6回
使用教科書 (発行所)	高等学校 標準 文学国語 (第一学習社)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。						
回	面接指導計画の概要						
〔前期〕							
1	現代の小説(1)		「調律師のるみ子さん」(いしいしんじ)				
2	現代の詩		「生命は」「そのひとつの席が」「食事」				
3	現代の小説(2)		「ナイン」(井上ひさし)				
4	随想〈芸術〉		「花のいざない」(観世寿夫)				
5	近代の小説(1)		「鼻」(芥川龍之介)				
6	戦争と文学(1)-①		《詩》「わたしが一番きれいだったとき」 「死んだ男の残したものは」「春-イラクの少女シャミラに-」				
7	戦争と文学(1)-②		《小説》「バグダッドの靴磨き」				
〔後期〕							
1	現代の小説(3)		「旅する本」(角田光代)				
2	近代の小説(2)		「山月記」(中島敦)①				
3	近代の小説(2)		「山月記」(中島敦)②				
4	近代の詩		「こころ」「汚れつちまつた悲しみに…」「永訣の朝」				
5	創作をする		「物語を発現する力」(佐藤雅彦) 「テーマを決めて短歌・俳句を作る」				
6	近代の小説(3)		「清兵衛と瓢箪」(志賀直哉)				
7	テスト対策						
評 価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	表現と理解に役立てるための音声、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり、的確に聞き取ったりする。また、自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり、適切な文章を書く。						40%
主体的に学習に取り組む態度	国語や言語文化に対する興味を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。					レポート・スクーリング	20%
履修者へのメッセージ							
スクーリングの前に本文を読んでおきましょう。 言葉には、想像や心情を豊かにするはたらきがあります。小説、詩、随想のさまざまなジャンルの作品を読むことを通して、言葉の力を 身に付け、言葉を豊かにしていきましょう。							

通信制課程 授業計画表

年度	R6	教科「科目」(単位数)	古典探究(4)	年次	3	添削指導	前期6回 後期6回
使用教科書 (発行所)	新編 古典探究(東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。論理的に考える力や深く共感したり豊かな想像力や創造性を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
回	面接指導計画の概要						
〔前期〕							
1	説話に親しむ『宇治拾遺物語』『小野篁、広才のこと』 随筆を読む『徒然草』(兼好法師)「九月二十日のころ」						
2	随筆を読む『徒然草』(兼好法師)「花は盛りに」 『徒然草』と『玉勝間』を読み比べる						
3	和歌の世界 『小倉百人一首の世界』(あんの秀子) 『小倉百人一首』より						
4	唐詩と文 文-二編『雑説』(韓愈)						
5	日記を読む 『土佐日記』(紀貫之)「馬のはなむけ」「帰京」						
6	近世文学の世界 『世間胸算用』(井原西鶴)「蛸売りの八助」						
7	まとめ・テスト対策						
〔後期〕							
1	随筆を味わう 『枕草子』(清少納言)「ありがたきもの」他						
2	歌物語を楽しむ 『大和物語』『姥捨』						
3	歴史物語を読む 『大鏡』『道真の左遷』						
4	唐詩と文・古詩を味わう・日本の漢詩文 唐詩-八首 古体詩-五首 詩-二首(間旅雁)						
5	中国の思想・日本の漢詩文 論語-三章 信玄と謙信						
6	作り物語を味わう 『源氏物語』(紫式部)「光源氏の誕生」						
7	まとめ・テスト対策						
評 価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。作品や文章の種類と特徴について理解を深めている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	文章の種類を踏まえて、構成や展開、内容などを的確に捉える。古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	古典作品に関心を持ち、文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりする。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
人間の普遍的な生き方や心情を豊かに表現した作品を学ぶことにより、さまざまな角度から日本の言語文化の諸側面や伝統文化にふれましょう。言葉は、文化の継承、発展、創造を支える働きをもっています。先人から今に繋がる文化や思いを言葉を通して学んでいきましょう。古典を通じて「言葉」の奥深さを知ってほしいと思います。言語文化で学んだ古典よりも難易度がアップします。履修者はしっかり勉強してください！							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	国語演習A(2)	年次	2	添削指導	後期6回
使用教科書 (発行所)	新総合 図説国語(東京書籍)		学習書 (発行所)				
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力(書く力・伝える力)を育成することを目指す。						
回	面接指導計画の概要						
1	文章の種類と書く手順・文章構成・原稿用紙の使い方(横書き)						
2	「意見文」を書く(新聞記事を使って)						
3	「意見文」を読む						
4	「資料読解型」小論文						
5	「論文読解型」小論文						
6	課題の設定と調査探究						
7	テスト対策						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	自分の思いや考えを多彩に表現表現するために必要な語句を身に付け、文章の構成や展開の仕方について理解をしている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	自分の考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど表現の仕方を工夫している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
国語演習Aは小論文基礎編として位置づけ、さまざまな文章の書き方を学習します。次年度前期の国語演習Bは小論文実践編となりますので、大学受験で小論文が必要な人は継続して履修してください。スクーリングでレポートに取り組めます。必ずレポートを準備してください。下書き用のノートや辞書があると書くときに役立ちます。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	国語演習B(2)	年次	3	添削指導	前期6回
使用教科書 (発行所)	新総合 図説国語(東京書籍)		学習書 (発行所)				
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力(書く力・伝える力)を育成することを目指す。						
回	面接指導計画の概要						
1	テーマ型小論文①						
2	論文読解型小論文①						
3	テーマ型小論文②						
4	論文読解型小論文②						
5	資料読解型小論文						
6	論文読解型小論文③						
7	まとめ						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	自分の思いや考えを多彩に表現表現するために必要な語句を身に付け、文章の構成や展開の仕方について理解をしている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	自分の考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど表現の仕方を工夫している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり思いや考えを深めたりしながら、言葉の持つ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
国語演習Bは小論文実践編として国語演習Aの延長として位置づけています。大学受験で小論文が必要な人は継続して履修してください。論文読解や小論文作成に必要な語彙も増やしていきましょう。スクーリングでレポートに取り組みます。必ずレポートを準備してください。下書き用のノートや辞書があると書くときに役立ちます。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	国語演習C(2)	年次	3	添削指導	後期6回
使用教科書 (発行所)		新総合 図説国語(東京書籍)		学習書 (発行所)			
科目の目標		文学史を概観することで我が国の言語文化に対する興味を喚起し理解を深め、作品鑑賞へ発展させる意識と態度を養う。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって言語文化に親しみ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
回	面接指導計画の概要						
1	「上代の文学」と作品の鑑賞						
2	「中古の文学」と作品の鑑賞						
3	「中世の文学」と作品の鑑賞						
4	「近世の文学」と作品の鑑賞						
5	「近現代の文学」と作品の鑑賞①						
6	「近現代の文学」と作品の鑑賞②						
7	テスト対策						
評価							
評価の観点					評価の方法		割合
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。				単位認定試験		40%
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。						40%
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度をもとうとする。				レポート・スクーリング		20%
履修者へのメッセージ							
今まで読み継がれてきた文学作品を系統的に学習します。どのような時代にどのような作品が書かれたのか、それぞれの時代に生きた人々に思いをはせながら学習していきましょう。私たち一人ひとりが言語文化の担い手です。卒業までに少しでも多くの作品に出会ってください。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	基礎国語	年次	1	添削指導	前期6回
使用教科書 (発行所)	高校国語へのアプローチ 基礎編 (中部日本教育文化会)		学習書 (発行所)				
科目の目標	中学校までの学習内容の復習と高校国語への準備をする。言語活動の充実に資する国語の資質・能力、社会人として生活するために必要な国語の資質・能力の基礎を定着させる。						
回	面接指導計画の概要						
1	小説を読む 表現(原稿用紙の使い方・作文)						
2	論説文を読む 文法						
3	古文の基礎 「竹取物語」						
4	漢文の基礎 「守株」						
5	詩・短歌・俳句						
6	文学史 本の魅力を伝える						
7	学習のまとめ テスト対策						
評 価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	高校国語のスタートに必要な国語の知識や技能を身に付けている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	文章の内容を的確に捉え内容を理解している。自分の思いが効果的に伝わるよう表現の仕方を工夫している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	国語や言語文化に対する興味を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
この科目では現代の論理的な文章を学習します。1回ごとの内容が広いため、スクーリングの前には必ず本文を読んで予習をしておきましょう。レポートではさまざまなテーマで自分の考えを書くことを通して言葉の力を身につけていきます。レポート作成は時間がかかりますので、早めにとりかかりましょう。スクーリング時には、必ず教科書・レポートを準備しておきましょう。							

通信制課程 授業計画表

年度	R6	教科「科目」(単位数)	地理歴史「地理総合」(2)	年次	2	添削指導	前期6回
使用教科書 (発行所)	高等学校新地理総合(帝国書院)		副教材 (帝国書院)	標準高等地図			
科目の目標	地理に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。						
回	面接指導計画の概要						
1	地理上の位置と私たちの生活 時差と私たちの生活／地球儀と地図						
2	国家の領域と国境／日本の領域と領土問題						
3	山地・平野の地形と人々の生活／海岸の地形と人々の生活						
4	世界の気候と人々の生活						
5	世界の食卓に影響を与える農業(アメリカ・中国・韓国)						
6	地域統合が人々の生活や産業に与える影響／EU統合と人々の生活						
7	学習のまとめ・・・試験対策						
8	○スクーリングのときは、必ず教科書・筆記用具を持参して						
9	※教科書・筆記用具を忘れた場合は、授業を受講することができませんので、忘れ物のないように してく ださい。						
10	◎出席点は、3回以上の出席がないと加算(評価)しません						
11							
12							
評 価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	現代社会の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
地理総合では、主に世界の地理を中心に基礎的知識を分かりやすく学習します。気候・風土だけでなく、民族・宗教問題や環境問題、そして政治・経済にも関連づけて、スクーリング(面接指導)では、具体的に説明しますが、自ら地図帳で確認することも大切なので注意しましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	地理歴史「歴史総合」(2)	年次	2	添削指導	後期6回
使用教科書 (発行所)	新選 歴史総合(東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代史を理解すると共に、諸資料から歴史に関する情報を適切且つ効果的に調べる技能を身に付けようとする。						
回	面接指導計画の概要						
1	第1回 結びつく世界と日本の開国						
2	第2回 国民国家と明治維新						
3	第3回 第一次世界大戦と大衆社会						
4	第4回 経済危機と第二次世界大戦						
5	第5回 冷戦と世界経済						
6	第6回 世界秩序の変容と日本						
7	第7回 学習のまとめ・・・試験対策						
○スクーリングのときは、必ず教科書・筆記用具を持参して							
※教科書・筆記用具を忘れた場合は、授業を受講することができませんので、忘れ物のないようにしてく ださい。							
◎出席点は、3回以上の出席がないと加算(評価)しません							
評 価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	現代社会の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社旗の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
歴史総合は近代史が中心になりますが、歴史の流れをつかむために教科書最後に掲載されている年表を見直しておきましょう。世界史年表も併記されていますので参考になります。レポート学習には調べ学習もありますが、原則として教科書に添っています。スクーリング(面接指導)では、具体的に歴史的背景や史実にふれて説明するところもあります。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	地理歴史「公共」(2)	年次	2	添削指導	後期6
使用教科書 (発行所)	公共(東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	我が国の選挙権年齢が令和4年度から18歳へと引き下げられ、高校生にとって政治や社会は一層身近なものとなり、自ら考え、積極的に国家や社会に参加する環境が整いつつあるなかで、新設された「公共」は、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標としている。						
回	面接指導計画の概要						
1	現代社会に生きる青年						
2	公共的な空間における基本的原理						
3	民主政治と私たち						
4	法の働きと私たち						
5	経済社会で生きる私たち						
6	国際社会のなかで生きる私たち						
7	学習のまとめ・・・試験対策						
○スクーリングのときは、必ず教科書・筆記用具を持参してください。 ※教科書・筆記用具を忘れた場合は、授業を受講することができませんので、忘れ物のないようにしてください。 ◎出席点は、3回以上の出席がないと加算（評価）しません。							
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	現代社会の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	地理や歴史に関わる緒事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社旗の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
公共の授業では、現代社会の基本的な問題に対する判断力の基礎を培うとともに、それに関連させながら人間の生き方やあり方を学習します。日々のテレビ・新聞の時事ニュースに興味・関心をいただき、常に自分の意見や感想を述べられるように心がけておきましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	地理歴史「倫理」(2)	年次	3	添削指導	前期6
使用教科書 (発行所)	倫理(東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方につてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深める。						
回	面接指導計画の概要						
1	人間の特質・青年期の特質						
2	人間と哲学・ギリシアの思想						
3	キリスト教〔イエスの教え・キリスト教の展開〕 イスラーム〔ムハンマドとイスラームの教え・イスラームの展開〕						
4	仏教〔古代インドの思想・ブッダの思想・仏教の展開〕 中国の思想〔孔子と儒家の思想〕						
5	儒家思想の展開〔孟子と荀子〕・老荘思想〔老子・荘子〕 西洋思想〔経験論(ベーコン)と合理論(デカルト)〕						
6	モラリスト(モンテーニュ・パスカル)、人格の尊厳(カント) 弁証法(ヘーゲル)、功利主義(ベンサム・J.S.ミル) プラグマティズム(パース・ジェームズ・デューイ) 新たな人間像を求めて:実存哲学(キルケゴール、ニーチェ)						
7	学習のまとめ・・・試験対策						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	現代社会の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社旗の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
人生(青年期)には多くの悩みや問題が生じるものです。自分ひとりで解決できないこともあります。人間はこれまで世の中のことや人生に関する諸問題を解決する手段として、宗教や先人の思想・哲学が誕生しました。その入門書が「倫理」の教科書です。「倫理」では、その基礎的な知識の一部を選択して学びます。スクーリング(面接指導)では、少しでもこれからの自分の人生の指針の一つになるように、教科書に登場する哲学者や思想家たちの人生観や哲学思想を具体的に説明します。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	地理歴史「政治・経済」(2)	年次	3	添削指導	後期6
使用教科書 (発行所)	政治・経済(第一学習社)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について考察し、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。						
回	面接指導計画の概要						
1	日本国憲法と現代社会のあり方						
2	市場経済の機能と限界						
3	持続可能な財政および租税のあり方						
4	金融を通じた経済活動の活性化						
5	経済活動と福祉の向上						
6	グローバル化する国際社会の諸課題						
7	学習のまとめ・・・試験対策						
○スクーリングのときは、必ず教科書・筆記用具を持参してください。							
※教科書・筆記用具を忘れた場合は、授業を受講することができませんので、忘れ物のないようにしてください。							
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	現代社会の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社旗の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
中学校の社会科では、公民的分野で基礎的なことを学習したと思います。高等学校における政治・経済は、もっと具体的な身近な基礎知識として学習していきます。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	数学 I (3)	年次	1・2年次	添削指導	前期6・後期6
使用教科書 (発行所)	新数学 I NEW MATHEMATICS (東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	数学における基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、さらに事象を数学的に考察し処理する能力を高める。この科目では基礎数学の発展として、高校数学の基礎を培うと共に、数学的な知識を、積極的に活用する能力を育てる。数学 I については方程式と不等式、2次関数、図形と計量、集合と論証について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟だけでなく、論理的に思考する能力を伸ばす。						
回	面接指導計画の概要						
	前期						
1	数と式 (整式と整式の乗法)						
2	数と式 (因数分解)						
3	実数と不等式 (無理数の演算)						
4	実数と不等式 (不等式)						
5	2次方程式 (2次方程式の解法)						
6	学習のまとめ						
	後期						
1	2次関数 (2次関数のグラフ)						
2	2次関数 (平方完成)						
3	2次関数 (2次関数の最大値・最小値)						
4	図形と計量 (三角比の定義)						
5	図形と計量 (三角比の変換、面積)						
6	図形と計量 (正弦定理、余弦定理)						
7	集合と論証						
8	学習のまとめ						
評価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力等を適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。						40%
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					レポート・スクーリング	20%
履修者へのメッセージ							
数学 I は今後の数学を学ぶ基礎・基本となります。授業では公式や定理の使い方・計算のやり方に重点を置いて練習します。授業に出席すれば、レポートの問題の解き方を丁寧に説明します。まずは、出席してください！！							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	数学Ⅱ(4)	年次	3年次	添削指導	前期6・後期6
使用教科書 (発行所)	新数学Ⅱ NEW MATHEMATICS (東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	数学における基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な見方や考え方を積極的に問題解決に活用する能力を育てる。数学Ⅰに続く内容として、式の証明、高次方程式、図形と方程式、関数及び、微分・積分の考え方について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力や活用する能力を伸ばす。						
回	面接指導計画の概要						
	前期						
1	方程式・式と証明 (複素数の四則演算)						
2	方程式・式と証明 (式の除法、高次方程式)						
3	図形と方程式 (座標と直線の方程式)						
4	図形と方程式 (円の方程式 不等式の表す領域)						
5	図形と方程式 (不等式の表す領域 三角関数)						
6	三角関数 (三角関数の拡張)						
7	三角関数 (加法定理、合成)						
8	学習のまとめ						
	後期						
1	指数関数と対数関数 (指数関数)						
2	指数関数と対数関数 (指数関数・対数関数)						
3	指数関数と対数関数 (対数関数)						
4	微分と積分 (微分係数)						
5	微分と積分 (導関数)						
6	微分と積分 (積分の導入)						
7	微分と積分 (積分・グラフによって囲まれる面積)						
8	学習のまとめ						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	数の範囲や式の性質に着目し、等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
数学Ⅱは数学Ⅰの応用となります。教科書の例題や練習問題を徹底的に理解し活用できるようにしましょう。数学Ⅰで積み上げてきたものをフルに使います。授業では、演算方法に重点をおいて勉強していきたいと思います。当然今まで習ったことのないことばかりですので、しっかり出席及び復習をしてください。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	数学A(2)	年次	2・3年次	添削指導	後期6
使用教科書 (発行所)	新数学ANEW MATHEMATICS (東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	場合の数と確率、整数の性質又は図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
回	面接指導計画の概要						
1	順列と組み合わせ（集合 順列）						
2	順列と組み合わせ（組み合わせ）						
3	確率（確率の定義、独立な試行の確率）						
4	確率（反復試行の確率、条件付き確率）						
5	平面図形、作図（三角形の性質 重心・外心・内心・作図）						
6	平面図形（円周角、円に内接する四角形、円の接戦、方べきの定理）						
7	数学と人間の活動（2進法・約数、倍数・最大公約数、最小公倍数・ユークリッドの互除法）						
8	学習のまとめ						
評価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。						40%
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					レポート・スクーリング	20%
履修者へのメッセージ							
数学Aは身近な現象である、野球やサッカーの試合数やくじの当たる確率などを数学的にとらえ、また図形では事象を論理的に説明し、考える学習をします。生活面で、みなさんの考えを他の人に論理的に伝達するために必要な学習です。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	数学B(2)	年次	3年次	添削指導	前期6
使用教科書 (発行所)	高校数学B(実教出版)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深める。						
回	面接指導計画の概要						
1	前期 数列と一般項、等差数列			数学Bは、平日登校をして学習を進めます。 土曜日しか登校できない場合は、履修しないでください。			
2	等差数列の和 等比数列						
3	等比数列の和 様々な数列の和						
4	階差数列 漸化式 数学的帰納法						
5	確率変数と確率分布 確率とその基本性質						
6	確率変数の平均、分散、標準偏差						
7	正規分布 二項分布						
8	学習のまとめ						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
社会生活の中で見られる様々な事象や他の教科で学んだ内容は実は数学と深い関わりがあります。生活の中の様々な調査は数学を活用して、色々と分析されています。身近な数学的事象の「数列」「統計的な推測」の2つについて学んでいきましょう。数学B履修者は、こちらが定める平日に登校して学習を進めます。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	基礎数学(4)	年次	1年次	添削指導	前期6・後期6
使用教科書 (発行所)	数学入門(東京書籍)		学習書 (発行所)				
科目の目標	基礎学力不足に対し、小学・中学の復習により学力を向上させるため、基本的な数の演算から学ぶ。また、事象を数理的に考察・処理する能力を復習し、高める。数学的な見方や考え方を知り、高校段階の学習に取り組む力を育てることを目標とする。						
回	面接指導計画の概要						
	前期						
1	計算(足し算・引き算)、計算(かけ算)						
2	計算(割り算)、計算(整数の四則演算)						
3	計算(分数の計算①～約分～足し算～引き算)						
4	計算(分数の計算②～かけ算～割り算)						
5	計算(分数の計算③～四則演算)						
6	学習のまとめ						
	後期						
1	計算(加法・減法 ※文字を含む)						
2	計算(乗法・除法・累乗 ※文字を含む)						
3	計算(分数の四則演算)						
4	計算(応用・復習)						
5	式の展開						
6	平方根の計算						
7	1次方程式・2次方程式						
8	学習のまとめ						
評価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	数学における基本的な概念や 原理・法則などを体系的に理解する。事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりすることに関する技能を身に付ける。					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に 考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付ける。						40%
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数 学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返りて考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。					レポート・スクーリング	20%
履修者へのメッセージ							
丁寧に復習することによって、数学の苦手意識を解消しましょう。数学は積み重ねの学問です。単位修得のため、休まないようにしましょう。分からないときや、つまづいたときは質問して下さい。じっくり教えます。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	化学基礎 (2)	年次	1	添削指導	6
使用教科書 (発行所)	新編化学基礎 (東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	化学が物質を対象とする科学であることや、化学が人間生活に果たしている役割を理解し、原子の構造及び電子配置と周期律の関係や化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて興味・関心を高める。						
回	面接指導計画の概要						
1	化学と人間生活(教科書P6～33、レポートNo1) 化学とは何か。						
2	物質の成分と物質の構成元素 物質の三態						
3	物質の構成(教科書P34～47、レポートNo2) 原子の構造と元素の周期表 原子の構造・電子配置と周期表①						
4	原子の構造と元素の周期表 原子の構造・電子配置と周期表②						
5	化学結合(教科書P48～79、レポートNo3) イオンとイオン結合 分子の共有結合 金属の金属結合 化学結合と物質の分類①						
6	イオンとイオン結合 分子の共有結合 金属の金属結合 化学結合と物質の分類②						
7	物質と化学反応式(教科書P82～167、レポートNo4,5,6) 物質と化学反応式 原子量・分子量・式量 溶液の濃度						
8	化学反応の表し方 化学反応式の表す量的関係						
9	酸と塩基 酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と円の生成 中和滴定①						
10	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と円の生成 中和滴定②						
11	酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の応用						
12	前期のまとめとテスト対策						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
化学基礎は面接指導を中心に行います。回数が多いですが、可能な限りスクーリングへ出席してください。レポートの各課題に、参考となる教科書のページが書いてあります。参考書等も自ら購入し活用してください。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	生物基礎(2)	年次	1年次	添削指導	後期6
使用教科書 (発行所)		高等学校 生物基礎(啓林館)		学習書 (発行所)			
科目の目標		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。					
回	面接指導計画の概要						
1	第1部 生物の特徴		第1節 生物の共通性と多様性				
2	第1章 生物の特徴		第2節 生物とエネルギー				
3	第2部 遺伝子とその働き		第1節 遺伝情報とDNA				
4	第2章 遺伝子とその働き		第2節 遺伝子情報とタンパク質の合成				
5	第3部 ヒトの体の調節		第1節 情報の伝達				
6	第3章 神経系と内分泌系による調節		第2節 体内環境の維持のしくみ				
7	第4章 免疫		第1節 免疫の働き				
8	第4部 生物の多様性と生態系						
9	第5章 植生と遷移		第1節 植生と遷移				
10	第6章 生態系とその保全		第1節 生態系と生物の多様性				
11			第2節 生態系のバランスと保全				
12	学習のまとめとテスト対策						
評価							
評価の観点					評価の方法		割合
知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。				単位認定試験		40%
思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見だし、観察、実験から得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。						40%
主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				レポート・スクーリング		20%
履修者へのメッセージ							
生物基礎では、生物のからだで起こる生命現象などについて学びます。生物のからだで起こっている現象などについて詳しく知ることで、生きていることのすばらしさや不思議さを感じてください。教科書をよく読み、学習を進めていってください。さらに、スクーリングでの解説を聞くことで、一層理解が深められますので、できる限りスクーリングに出席しましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	科学と人間生活(2)	年次	2年次	添削指導	前期6
使用教科書 (発行所)		高等学校 科学と人間生活 (啓林館)		学習書 (発行所)	なし		
科目の目標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術と人間生活とのかかわりについての理解を深め、観察、実験などに関する技能を身に付け、人間生活と関連づけて科学的に探究する力を養う。また、自然の事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。					
回	面接指導計画の概要						
1	序章 科学技術の発展						
2	第1部 生命の科学						
3	第1章 ヒトの生命現象						
4	第2章 微生物とその利用						
5	第2部 物質の科学・第1章 材料とその利用						
6	第2章 衣料と食品						
7	第3部 光や熱の科学・第1章 光の性質とその利用						
8	第2章 熱の性質とその利用						
9	第4部 宇宙や地球の科学・第1章 太陽と地球						
10	第2章 自然景観と自然災害						
11	終章 これからの科学と人間生活						
12	学習のまとめとテスト対策						
評価							
評価の観点					評価の方法		割合
知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究する。ために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けるようにする。				単位認定試験		40%
思考・判断・表現	自然の事物・現象を人間生活と関連付けて、問題を見だし、観察、実験の結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。						40%
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。				レポート・スクーリング		20%
履修者へのメッセージ							
科学と人間生活では、自然界を構成している事象や現象が科学技術と人間生活に果たした役割を学習します。スクーリングでは日常生活になじみの深いことからを題材にして、レポート内容に沿って教科書を中心に学習を進めていきます。教科書をよく読み、学習を進めていってください。さらに、スクーリングでの解説を聞くことで、一層理解が深められますので、できる限りスクーリングに出席しましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	地学基礎(2)	年次	2	添削指導	6
使用教科書 (発行所)	地学基礎 (東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
回	面接指導計画の概要						
1	私たちの大地(教科書P14～49、レポートNo1、No2) 大地とその動き①						
2	大地とその動き②						
3	火山活動と地震①						
4	火山活動と地震②						
5	私たちの空と海(教科書P50～73、レポートNo3) 地球の熱収支						
6	大気と海水の運動						
7	私たちの宇宙の誕生(教科書P76～95、レポートNo4) 宇宙の構造と進化						
8	私たちの地球の歴史(教科書P96～127、レポートNo5) 地層と化石の観測①						
9	地層と化石の観測② 大気と海洋 日本の自然の恵みと防災						
10	地球に生きる私たち(教科書P128～169、レポートNo6) 日本の自然の恵みと防災						
11	終章(地球環境の考え方、自然環境の変動、これからの地球環境)						
12	前期のまとめとテスト対策						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
地学基礎は面接指導を中心に行います。回数が多いですが、可能な限りスクーリングへ出席してください。レポートの各課題に、参考となる教科書のページが書いてあります。参考書等も自ら購入し活用してください。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	化学α(2/4)	年次	3	添削指導	6
使用教科書 (発行所)	化 学 Vol.1 理論編(東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。						
回	面接指導計画の概要						
1	1編1章 物質の状態(教科書10～25、レポートNO1) 物質の三態 気体・液体間の状態変化						
2	1編2章 気体の性質(教科書26～42、レポートNO2) 気体 気体の状態方程式①						
3	気体 気体の状態方程式②						
4	1編3章溶液の性質(教科書44～70、レポートNO3) 溶液 希薄溶液の性質 コロイド						
5	1編4章 固体の構造(教科書72～88、レポートNO3) 結晶 金属結晶と構造						
6	イオン結晶の構造 分子結晶と共有結合の結晶						
7	2編1章 化学反応と熱・光(教科書90～110、レポートNO4) 反応とエンタルピー変化 ヘスの法則 光とエネルギー①						
8	反応とエンタルピー変化 ヘスの法則 光とエネルギー②						
9	2編2章 電池と電気分解(教科書112～155、レポートNO5) 電池・電気分解						
10	3編1章 化学反応の速さと平衡(レポートNo5) 化学反応の速さ・反応速度を変える条件・反応のし						
11	3編 化学平衡(教科書156～194、レポートNO6) 可逆反応と化学平衡・平衡の移動 電離平衡・塩と化学平衡						
12	まとめとテスト対策						
評 価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
化学は面接指導を中心に行います。回数が多いですが、可能な限りスクーリングへ出席してください。レポートの各課題に、参考となる教科書のページが書いてあります。参考書等も自ら購入し活用してください。							

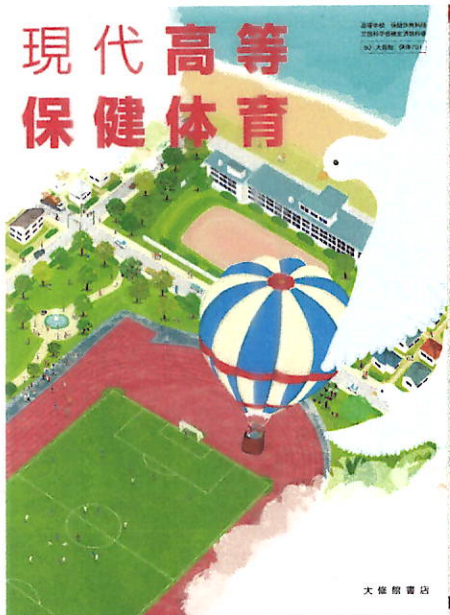
年度	R6	教科「科目」(単位数)	化学Ⅲ(2/4)	年次	3	添削指導	6
使用教科書 (発行所)	化 学Vol.2 物質編 (東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標							
回	面接指導計画の概要						
1	4編1章・2章 周期表と元素 非金属元素の単体と化合物①(教科書8～42、レポートNO1)						
2	4編2章 非金属元素の単体と化合物②						
3	4編3章 典型金属元素の単体と化合物(教科書44～65、レポートNO2) アルカリ金属 アルカリ土類金属他						
4	4編4章 遷移元素の単体と化合物(教科書66～83、レポートNO3)						
5	4編5章 金属イオンの分離と確認(教科書88～98、レポートNO3)						
6	5編1章 有機化合物(教科書101～116、レポートNO4) 有機化合物の特徴と構造						
7	5編2章 炭化水素(教科書118～138、レポートNO4)						
8	5編3章 アルコールと関連化合物(教科書140～171、レポートNO5)						
9	5編4章 芳香族化合物(教科書172～204、レポートNO5)						
10	6編1章 高分子化合物とは何か(教科書210～270、レポートNO6)						
11	6編2章3章 天然高分子化合物 合成高分子化合物(レポートNO6)						
12	まとめとテスト対策						
評 価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
化学は面接指導を中心に行います。回数が多いですが、可能な限りスクーリングへ出席してください。レポートの各課題に、参考となる教科書のページが書いてあります。参考書等も自ら購入し活用してください。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	生物(4)	年次	2・3年次	添削指導	前期6 ・後期6
使用教科書 (発行所)	高等学校 生物(啓林館)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験や、実験のデータなどの分析を行い、生物学的に探究する能力と態度を身につける。生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。						
回	面接指導計画の概要						
	前期						
1	第1部 生物の進化	第1章 生物の進化					
2		第2章 有性生殖と遺伝的多様性					
3		第3章 進化のしくみ					
4		第4章 生物の系統					分類
5		//					ドメイン
6	第2部 生命現象と物	第5章 生命と物質					細胞
7		//					タンパク質
8		第6章 代謝					呼吸
9		//					代謝
10	第3部 遺伝情報の発現と発生	第7章 遺伝現象と物質					複製
11		//					転写・翻訳
12	学習のまとめとテスト対策						
	後期						
1		第8章 発生と遺伝子の発現					受精
2		//					発生
3		第9章 バイオテクノロジー					
4	第4部 生物の環境応答	第10章 刺激の受容と反応					刺激
5		//					神経系
6		第11章 動物の行動					
7		第12章 植物の環境応答					花芽形成
8		//					発芽・成長
9	第5部 生態と環境	第13章 個体群と生物群集					
10		//					
11		第14章 生態系					
12	学習のまとめとテスト対策						
評価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見だし、観察、実験などの得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。						40%
主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。					レポート・スクーリング	20%
履修者へのメッセージ							
生物では、わたしたちヒトを含めたすべての生物が生きるためのしくみを知ることで、わたしたちの暮らしや健康の理解を深めることができます。教科書をよく読み、学習を進めていってください。さらに、スクーリングでの解説を聞くことで、一層理解が深められますので、できる限りスクーリングに出席しましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	地学α(2/4)	年次	3	添削指導	6
使用教科書 (発行所)		高等学校 地学 (啓林館)		学習書 (発行所)	なし		
科目の目標		地学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察などを行い、地学的に探究する能力と態度を身につける。加えて、地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養うとともに、地学的な環境・環境問題に対して興味・関心を高め、その分析や問題への対応を考える能力を高める。					
回	面接指導計画の概要						
1	(1)固体地球の概観と活動 (教科書P8～107、レポートNo1,2,3)						
	地球の概観①						
2	地球の概観②						
3	プレートテクトニクス①						
4	プレートテクトニクス②						
5	地球の活動①						
6	地球の活動②						
7	(2)地球の歴史(教科書P108～203、レポートNo4,5,6)						
	地表の変化と地層①						
8	地表の変化と地層②						
9	地球・生命・環境の歴史①						
10	地球・生命・環境の歴史②						
11	私たちの日本列島						
12	前期のまとめと単位認定試験に向けての学習や質問 テスト対策						
評価							
評価の観点					評価の方法		割合
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。				単位認定試験		40%
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。						40%
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。				レポート・スクーリング		20%
履修者へのメッセージ							
地学は面接指導を中心にを行います。回数が多いですが、可能な限りスクーリングへ出席してください。レポートの各課題に、参考となる教科書のページが書いてあります。参考書等も自ら購入し活用してください。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	地学Ⅱ(2/4)	年次	3	添削指導	6
使用教科書 (発行所)		高等学校 地学 (啓林館)	学習書 (発行所)	なし			
科目の目標		地学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察などを行い、地学的に探究する能力と態度を身につける。加えて、地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養うとともに、地学的な環境・環境問題に対して興味・関心を高め、その分析や問題への対応を考える能力を高める。					
回	面接指導計画の概要						
1	(1)大気と海洋(教科書P204～299、レポートNo1,2,3) 大気の構造 大気の運動①						
2	大気の構造 大気の運動②						
3	海洋と海水の運動①						
4	海洋と海水の運動②						
5	気候変動と地球環境①						
6	気候変動と地球環境②						
7	(2)宇宙の構造(教科書P300～397、レポートNo4,5,6) 太陽系の天体①						
8	太陽系の天体②						
9	恒星の性質と進化①						
10	恒星の性質と進化②						
11	銀河系と宇宙						
12	前期のまとめと単位認定試験に向けての学習や質問 テスト対策						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
地学は面接指導を中心に行います。回数が多いですが、可能な限りスクーリングへ出席してください。レポートの各課題に、参考となる教科書のページが書いてあります。参考書等も自ら購入し活用してください。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	保健体育「体育ABC」(6)	年次	各年	添削指導	各1枚
使用教科書 (発行所)	ステップアップスポーツ(大修館)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	する・見る・支える・知るの観点から、体力の維持向上と生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。						
回	面接指導計画の概要						
	教科書 ○ 前期 後期 (実技6時間 座学4時間) オリエンテーション・身体測定 体づくり運動・ダンス スポーツテスト(前期のみ) 球技 バドミントン 卓球 その他のスポーツ スポーツルールの座学 座学 スポーツと健康に関する放送視聴 テスト対策 ○ 体育のスクーリング回数は10時間 最低出席時間数は5時間 ※実技の集中スクーリングはランニングになります。 ○ 体育は、各学期1単位で唯一3年間ある授業です。レポート枚数も少ない分、評価は出席を重視しています。また、テスト対策時にも、テストに関する内容の話をしています。 						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	課題に応じた運動の取り組み方や運動の技能の上達を工夫しながら実践し、スポーツの歴史やルールを理解する			単位認定試験 スクーリング		40%	
思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、課題に応じて運動の取り組み方目的に応じた運動を工夫する。体を使った表現を工夫することができる					40%	
主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを味わうことができ、健康の保持増進や健康な社会づくりについて主体的に取り組もうとしている			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
体育は、原則実技を伴った科目です。そのため、スクーリングの回数も、比較的多く設定されています。できるだけ多くのスクーリングへ参加をして、成長期に必要な体への刺激を与えてください。 なお、体育の実技では、体操服もしくはジャージ・Tシャツなど、スポーツ洋品店で売っている運動のできる服装と体移管シューズがないと参加できません。また、事故やけがを防ぐためにアクセサリを外して受講してください。 原則、体調不良による見学等はありませんので、運動の苦手な人は、座学中心で出席するようにしてください。(相談は担当教員へ早めに行ってください)							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	保健体育「体育R」(1)	年次	1(後期)	添削指導	2枚
使用教科書 (発行所)		現代保健体育(大修館)	学習書 (発行所)	なし			
科目の目標		スポーツの歴史や運動技能の仕組み、トレーニング理論などから、スポーツを知り科学的に理解する。					
回	面接指導計画の概要						
1	○ 後期 レポート2枚	教科書 現代高等保健体育 					
2	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ						
3	オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす影響						
4	スポーツの高潔さとドーピング スポーツ環境						
5	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦略						
6	技能の上達課程と練習 効果的な運動のメカニズム						
7	体力トレーニング 運動やすぽ一つでの安全の確保						
8	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ						
9	スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造						
10	テスト対策① テスト対策②						
		○ 体育Rのスクーリング回数は10時間 最低出席時間数は5時間です。					
		○ 評価は単位認定試験、レポート、出席、授業プリントで行います。					
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	課題の中で運動の歴史やトレーニング方法などを知り、活用できるようにする。文化的特性や現代スポーツを知る。			単位認定試験 スクーリング		40%	
思考・判断・表現	スポーツの楽しさや技術の向上についての方法を考える。 ライフスタイルに応じたスポーツのかかわり方を考える。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	課題に対して積極的に取り組み理解することができる。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
体育Rは、3年間7単位以上必要とされる体育の科目に含まれます。							
体育の科目のため、出席点のウエイトが少し高くなっています。また、課題解決型学習のため、学習後の提出課題があります。							
教科書は、保健で使用する教科書です。教科書、筆記用具がないとスクーリングでの学習を進めることができません。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	保健体育「保健」(2)	年次	1	添削指導	各3枚
使用教科書 (発行所)	現代保健体育(大修館)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	健康づくりの観点から自分自身で健康な生活をつくり、より豊かな生活を求めるために努力する資質を高める。健康について、社会の一員としてさらに地球の一員として取り組みができる。						
回	面接指導計画の概要						
1	○ 前期 レポート3枚			教科書			
2	現代社会の健康(1) 健康の考え方・生活習慣病・がんの予防と回復						
3	現代社会の健康(2) 運動、食事、休養、睡眠、喫煙、飲酒、薬物乱用						
4	現代社会の健康(3) 精神疾患、感染症、性感染症、意思決定・行動選択						
5	安全な社会生活 交通安全、応急手当、心肺蘇生法、テスト対策						
6	○ 後期 レポート3枚						
7	生涯を通じる健康(1) 思春期と健康、性意識と性行動、妊娠・出産・避妊法						
8	生涯を通じる健康(2) 結婚生活・中高年期と健康、働くことと労働災害、健康的な職業						
9	健康を支える環境づくり(1) 大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・地球規模の環境問題、ごみの処理と上下水道、食品の安全性						
10	健康を支える環境づくり(2) 保健・医療サービス、医薬品の制度、テスト対策						
11							
12							
13							
14							
15							
16							
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	自分や周りの健康・安全・それを支える環境づくりについて知り、理解し活用できたようにする。			単位認定試験 スクーリング		40%	
思考・判断・表現	日常生活での健康や環境問題、安全な生活について考え、判断し、まとめることができる。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	レポートへの取り組みとスクーリングへの出席及び授業プリントの評価			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
保健は生涯にわたって必要な雑学を学ぶ科目です。自分の健康をより豊かにするためにも、意識を持って学習に取り組みましょう。							
スクーリングでは、教科書の内容だけでなくいろいろな体験を中心に楽しく進めています。							
※授業に必要な教科書、筆記用具を必ず持参しましょう。開講時間数4 最低出席時間数2							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	保健体育「野外活動」(2)	年次	2・3	添削指導	各1枚
使用教科書 (発行所)	ステップアップスポーツ (大修館)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	○自然に触れあい自然の雄大さや自然の中で生きるすべを学ぶ						
	・前期 キャンプや海浜活動などから、自然を感じ、仲間との協力しながら楽しむ						
	・後期 ウィンタースポーツの中から自然を感じ、スポーツの技能を身に着ける。						
回	面接指導計画の概要						
1 実習日 2	履修条件について 前期・後期は分割履修が可能です。 実習日を含みすべてのスクーリングへの出席が必須です。(個人的な欠席は、再履修となります) ○前期実習日 7月の平日1日 実習内容(キャンプもしくはマリンスポーツ、ハイキング、フィッシングなど) ○後期実習日 12月の平日1日(クリスマス前頃) 実習内容(スキーもしくはスノーボード) 活動計画を行います。注意事項、準備物等 ・前期の野外活動は、グループ学習となります。 定められた日程での実習参加となります。体調面を含めて参加できるようにしましょう。 反省とテスト対策をします。 ◎野外活動は、1回目、2回目、実習日のすべてのスクーリングへ必ず出席が必要です。 ※特別な場合の欠席については、配慮する場合があります。 その他 前期野外活動は、実習費が、2,000円程度かかります。 後期野外活動は、実習費が、12,000円程度かかります。 レポートは各1枚 移動方法は学校集合して、そこからバス等で現地に向かいます。 2・3年生で履修することができますが、1度しか履修できません ★履修登録時に意思確認を行います。担当の教員まで必ず相談に来てください。						
	評 価						
	評価の観点				評価の方法		割合
知識・技能	各実習を行うための準備や運動を技術について調べ活動を			単位認定試験 スクーリング		40%	
思考・判断・表現	各活動について理解し、実習の計画を立てて活動することができる。グループでの活動に協力して行うことができる					40%	
主体的に学習に取り組む態度	野外活動の内容を理解し積極的に活動することができる			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
実習を伴う科目のため、別途費用が必要です。実習日当日徴収します。							
校外での活動を行いますので本校の生徒として自覚をもって活動してください。							
仕事や自分の都合で参加できない場合は、再履修扱いになります。十分注意して履修してください。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	音楽Ⅰ(2)	年次	1	添削指導	前期3回 後期3回
使用教科書 (発行所)	tutti+(プラス)(教育出版)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。						
回	面接指導計画の概要						
【前期】							
1	楽典	音符・休符など	「校歌」				
2	楽典	変化記号1・拍子	「校歌」				
3	楽典	変化記号2・強弱記号					
4	楽典	ト音記号・ヘ音記号・鍵盤					
5	楽典	鑑賞					
6	楽典	日本音名・著作権					
7	楽典	西洋音楽史					
8	試験対策						
【後期】							
1		ギター演奏「茶色の小びん」「きらきら星」					
2		//	コード3つ				
3		//					
4		//					
5	楽典	反復記号1	校歌				
6	楽典	反復記号2	校歌				
7	伝統芸能・民謡・和楽器						
8	試験対策						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	音楽に関する用語や記号など理解している。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	感性を働かせ表現を工夫したり、自分なりに解釈したりして、音楽の良さや美しさを味わうことができる。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	音楽を愛好し、関心を持ち、意欲的主体的に活動を行い、生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。また感動する喜びを味わおうとする。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
歌唱、器楽、鑑賞を通して音楽に興味を持ち、楽しみながら豊かな心とみずみずしい感性を養い、自分の個性を生かして表現しましょう。音楽は、生活を豊かにするものです。知識を身につけ、生涯音楽を愛好する心を育てましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	芸術科「書道Ⅰ」(2)	年次	2・3年次	添削指導	前期6回
使用教科書 (発行所)	書Ⅰ(光村図書)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	・書道の三分野と、臨書・鑑賞の学習方法を理解する。・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。・芸術科書道への関心・意欲を高め、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。						
回	面接指導計画の概要						
1	「漢字の変遷とさまざまな書体」(レポート説明)						
2	「あなたは、どの楷書が好き?」「唐の四大家に学ぶ楷書の基本」(レポート説明) 氏名の練習(提出)						
3	「孔子廟堂碑(楷書)」(レポート説明)						
4	「孔子廟堂碑(楷書)」臨書(提出)						
5	「九成宮醴泉銘(楷書)」(レポート説明)						
6	「九成宮醴泉銘(楷書)」臨書(提出)						
7	「蘭亭序(行書)」(レポート説明) なぞり書きシート①(提出)						
8	「蘭亭序(行書)」なぞり書きシート②(提出)						
9	「仮名の成立と種類」「平仮名」「変体仮名」(レポート説明)「片仮名の字源」(提出)						
10	「平仮名」臨書(提出)						
11	「漢字仮名交じりの書」(レポート説明)「あなたは、どの書が好き?」臨書(提出)						
12	前期単位認定試験対策(テスト対策プリント)						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	書道の分野や書道で学習すること、小・中学校の国語科書写で学習した内容を理解している。各書体の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	各書体の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	芸術科書道の学習に関心をもち、書道で学習することや、小・中学校の国語科書写で学習した内容に関心をもち、主体的に取り組んでいこうとする態度を養っている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
文字そのものは意志を伝達する記号に過ぎませんが、文字には各人の心が端的に表れると言われます。SNSでは伝えきれないものが、美しい文字により伝えることができるのではないのでしょうか。文字を書くのが苦手な人も、授業を通して繰り返し練習することで書く力を身につけ、自信につなげていってください。また、古典作品を鑑賞し臨書する楽しさを味わえるようになってください。スクーリング時には、教科書・レポート・筆ペンを忘れずに持参してください。筆ペンは学校で準備して配付します。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	英語コミュニケーションⅠ(3)	年次	1	添削指導	前期4回 後期6回
使用教科書 (発行所)	All Aboard English CommunicationⅠ(東京書籍)		学習書 (発行所)	All Aboard English CommunicationⅠ NHK出版			
科目の目標	コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた言語活動を通して、情報や考えなどを理解・表現する能力を育成する。						
回	面接指導計画の概要						
【前期】							
①	Lesson 1 動詞の過去形(be 動詞・一般動詞) 肯定文・否定文・疑問文						
②	Lesson 2 現在・過去進行形<be動詞+動詞の-ing形> 肯定文・否定文・疑問文>						
③	Lesson 3 助動詞 can(能力・可能) will(未来・意思表示) must(have/has+to),should						
④	Lesson 4 不定詞<to+動詞の原形>(名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法)						
⑤	Lesson 4 「～すること」「～するために」「～するべき・～するための」It is---(for人)to～の構文						
⑥	Lesson 5 動名詞<動詞の-ing形> 文中で名詞の働きをする						
⑦	Lesson 5 目的語・主語・補語になる又前置詞の後にくる						
⑧	前期の復習(テスト対策)						
【後期】							
①②	Lesson 6 受動態(受け身)<be動詞+過去分詞>「○○は～される」 「by+行為者」を使う場合、by以外を使う場合						
③④	Lesson 7 比較表現<-er> < the -est> < as+原級+as>-er than～「～よりも---」(比較級) the -est「いちばん---」(最上級)as---as～「～と同じくらい---」(原級)						
⑤⑥	Lesson 8 現在完了<have[has]+過去分詞>「(今までに)---したことがある」(経験) 「(今までずっと)---している」(継続)「(今は)---し終わっている」(完了)						
⑦⑧	Lesson 9 分詞の後置修飾 現在分詞(動詞の-ing形)「---している」 過去分詞「---される～」						
⑨⑩	Lesson 10 関係代名詞: who, which who:「人」について説明を加えるwhich:「人以外のもの」について説明を加える						
⑪	仮定法過去:もし私が○○なら---(現在の事実と反する仮定) 仮定法過去:<If + 過去形の文、I would(助動詞の過去形)-----						
⑫	後期の復習(テスト対策)						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	英語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、書くこと、話すことによるコミュニケーションにおいて目的や場面、状況などに応じて活用できる技能を身につけている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	意思伝達を行う目的や場面、状況などを想像して、日常的な話題や社会的な話題について、英語で要点、詳細を的確に理解し表現しようとしている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて意思伝達を図ろうとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
教科書Pre-Lesson1,2及びReading1,2は授業では行いません。各Lessonの本文の内容、基本的な文法、特に基本構文についてスクーリングで解説しますので、授業中は集中しましょう。スクーリングにはレポート作成の為のヒントが多くあります。欠席しないようしっかり頑張りましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	英語コミュニケーションⅡ(4)	年次	2,3	添削指導	前期6回 後期6回
使用教科書 (発行所)	All Aboard II English Communication II (東京書籍)		学習書 (発行所)	All Aboard English Communication II NHK出版			
科目の目標	日常的・社会的な話題について使用する語句や文、対話の展開などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理性に注意して詳しく伝えることができるようにする。						
回	面接指導計画の概要						
【前期】							
①②	Lesson 1 関係代名詞 : what 「---すること」「---するもの」という意味で、名詞の働きをする						
③④	Lesson 2 比較表現 : more,the most(原級の前に置いて、比較級、最上級を作る) more---than「~よりも---」(比較級)the most---in [of]「~の中でいちばん---」(最上級)						
⑤⑥	Lesson 3 itの用法 It is --- that ~「~というこいつは---です」 It is --- (for 人) to 「(--- にとって~することは---です」						
⑦⑧	Lesson 4 間接疑問文 be動詞の場合 ; < 疑問詞 + 主語 + be動詞 > 一般動詞の場合 : < 疑問詞 + 主語 + 一般動詞 >						
⑨⑩	Lesson 5 to不定詞を含む表現 < want + 目的語(A) +to--- > (A)に---してもらいたい> <ask+目的語(A)+to--->「(A)に---するように頼む」<tell+目的語(A)+to--->「(A)に---するように言う」						
⑪	Reading 1 <i>Mujina</i> 全文和訳 本文内容理解						
⑫	試験対策 前期の復習						
【後期】							
①②	Lesson 6 動詞の目的語になるif節 < wonder + if--->「---だろうかと思う」 < ask + 人 + if--->「---かどうか(人)に尋ねる」						
③④	Lesson 7 関係副詞 : where, when where:「場所」について説明を加える when:「時」について説明を加える						
⑤⑥	Lesson 8 知覚動詞 see, hear, feelなど<知覚動詞+目的語(A)+動詞の原形>「Aが---するのを~する」 <知覚動詞+目的語(A)+動詞の-ing形>「Aが---しているのを~する」						
⑦⑧	Lesson 9 使役動詞 make:<make+目的語(A)+動詞の原形>「Aに~させる」 let:<let+目的語(A)+動詞の原形>「Aに---させておく[あげる]」have:<have+目的語(A)+動詞の原形>「Aに---						
⑨⑩	Lesson 10 分詞構文 <動詞の-ing形>を使って、文に情報を付け加える ~ing「---しながら」(while)「---のとき」「---すると」(when,and)						
⑪	Reading 2 Bear's Pie 全文和訳 本文の内容理解						
⑫	試験対策 後期の復習 Extra Target 仮定法過去: <I wish+過去形の文>						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。これらの知識を4技能において活用できるように努力している。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	意思伝達を行う目的や場面、状況などを想像して日常的、社会的な話題について英語で適切に表現しようとしている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	英語の背景にある文化の理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、英語を用いての表現力の向上を図ろうとしている、			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
英語Ⅰより高度な英文を読んでいきます。基本的な文法事項や本文の内容は授業で解説しますが、英語Ⅰで学習したことが基本になります。英語に興味がある人又は進学を考えている人には必要な科目になります。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	英語コミュニケーションⅢ(2)	年次	3	添削指導	前期6回 後期6回
使用教科書 (発行所)	All Aboard English Communication Ⅲ(東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を更に伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。						
回							
【前期】							
①②	Lesson 1 to 不定詞 / 動名詞 : < to + 動詞の原形 > (to不定詞)と、<動詞-ing形>はいずれも名詞の働きをし、「---すること」という意味を表す。						
③④	Lesson 2 現在完了形 : < have [has] + 過去分詞>で、過去から現在までの経験や継続、現在までに完了した動作などを表す。						
⑤⑥	Lesson 3 使役動詞 : < 使役動詞 (make, let, have など) + 目的語 (A) + 動詞の原形 (---で「 (A) に---させる 」という意味になる。						
⑦⑧	Lesson 4 受動態 (受け身) < be動詞 + 過去分詞 > で、「 ---される 」という受け身を表す。						
⑨⑩	Lesson 5 関係代名詞 関係代名詞 (who, which, that) は、人や人以外の物について説明を加える。						
⑪	Reading 1 The Fun They Had 全文和訳 本文の内容理解						
⑫	試験対策 前期の復習						
【後期】							
①②	Lesson 6 関係代名詞の継続用法 : < , who > < , which > のように、関係代名詞の前にコンマ (,) がと、情報を付け加えることになり、「 ~ , (そして) それ [その人] は --- 」という意味を表す。						
③④	Lesson 7 比較表現 : < more than --- > は「 --- より多い」、< less than --- > は「 --- より少ない」、< as much as --- > は「 --- と同じだけ」という意味を表す。						
⑤⑥	Lesson 8 名詞の後置修飾 現在分詞や過去分詞を含む語句を名詞の後に置いて、その名詞を説明することができる。						
⑦⑧	Lesson 9 仮定法過去 : 現実には起こりえないこと、実際とは違うことを仮定するときを使う。 < If + 主語 + 過去形 --- > , < 主語 + 助動詞の過去形 + 動詞の原形 --- > Extra Target: 過去完了形 / 過去完了進行形 / 無条件法						
⑨⑩	Lesson 10 関係代名詞 whose : 「 --- の 」の意味をもち、前に来る名詞が whose の後にくる名詞の「持ち主、所有者」であることを示す。						
⑪	Reading 2 Table for Two : 全文和訳 / 本文の内容理解						
⑫	試験対策 後期の復習						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	英語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる意思伝達において目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	意思伝達を行う場面、状況などを想像して、日常的、社会的な話題について、英語で情報や考えなどを適切に表現しようとしている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	教科書の本文内容の理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて表現力の向上を図ろうとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
英語コミュニケーションⅠ、Ⅱを基本にして、更に単語、本文の長さ、内容等難易度が高くなっていますが、内容を理解し、単元別の文法を学ぶことでより英語力が向上します。進学を考えていたり、英語に興味がある人は是非この科目を勉強すると良いと思います。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	基礎英語(2)	年次	1	添削指導	前期6回
使用教科書 (発行所)	英語入門(東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	中学校の英語文法を中心に、英語に触れるための基礎を復習・習得する。問題演習を通じて第1文型～第5文型の構文を中心に英作文の基礎を学ぶ。						
回							
【前期】							
①	be 動詞①：現在形「～だ」「～にいる」「～にある」(is, am, are) 肯定文<主語+be動詞>・疑問文<be動詞+主語?>・否定文<主語+be動詞not>						
②	be 動詞②：過去形「～だった」「～にいた」「～にあった」(was, were) 肯定文<主語+be動詞>・疑問文<be動詞+主語?>・否定文<主語+be動詞not>						
③	一般動詞①：現在形「(動作や行為をする)」 肯定文<主語+動詞>・疑問文、否定文にはDo(do)/Does(does)を使う						
④	一般動詞②：過去形「(動作や行為を)した、行った」 肯定文<主語+動詞の原形> 疑問文<Did+主語+動詞の原形～?>・否定文<主語+didn't+動詞の原形>						
⑤	進行形：「～している」「～していた」 肯定文<主語be動詞+動詞のing形> 疑問文<be動詞+主語+動詞のing形>・否定文<主語+be動詞not+動詞のing形>						
⑥	助動詞：can / must / may / should can「～することができる」 must「～しなければならない」 may「～してもよい」should「～すべきだ」						
⑦	「未来」を表す文：will / be going to will「～する(つもりだ)」 「～だろう」 be going to 「～する(つもりだ)」						
⑧	疑問詞①：who/whose/what/which who「だれ」「人」をたずねる whose「だれの」「持ち主」をたずねる what「なに」「物・こと」をたずねる which「どれ」						
⑨	疑問詞②：when/where/why/how when「いつ」「時」をたずねる where「どこに[で]」(場所) why「なぜ」「原因・理由」 how「どのように(して)」(手段・方法)をたずねる						
⑩	不定詞①：to+動詞の原形(名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法) 不定詞②：いろいろな不定詞の用法 <It is---to+動詞の原形>						
⑪	動名詞：「～すること」 動詞のing形 enjoy / finish / stop + 動詞のing形<主語、目的語、補語になる>						
⑫	試験対策、復習						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	英語の基本構文を学び、その中で基本的な文法の理解を深め簡単な英語表現ができるように努力している。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	基本的な構文の学習から、習得した文法・イディオムなどを用いて目的、場面などに応じて活用できる英文を身に付けてようとしている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	構文及び文法などの知識を深め、正確な英文の作成に努めている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
高校の英語を学ぶために必要な英語の基礎を、中学校で学習したことを復習しながら進んでいきます。中学校で英語が苦手だった人や、もう一度復習しておきたい人におすすめします。基礎をしっかりと固めて高校英語の学習の準備をしましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	家庭総合(4)	年次	1	添削指導	前期4回 後期4回
使用教科書 (発行所)	家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	生活の営みに係る知識や技術を身につけ、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて男女が協力して主体的に生活を想像する力を育成することを目指す。						
回	面接指導計画の概要						
前期	人生をつくる(家族・家庭を見つめる) 子どもと共に育つ(命を育む、子どもの育つ力を知る) 子どもと共に育つ(子どもと関わる、これからの保育環境) 超高齢社会を共に生きる(超高齢・大衆長寿社会の到来、高齢期の心身の特徴、高齢者の自立を支える) 超高齢社会を共に生きる(これからの超高齢社会)、共に生き共に支える 経済生活を営む(購入・支払いのルールと方法、消費者の権利と責任) 経済生活を営む(生涯の経済生活を見通す、家計をマネジメントする) 学習のまとめ						
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
後期	食生活をつくる(食事と栄養・食品、食品の選択と安全、生涯の健康を見通した食事計画) 食生活をつくる(調理の基礎・食生活の文化と知恵、これからの食生活) 住生活をつくる(住生活の変遷と住居の機能) 住生活をつくる(安全で快適な住生活の計画、住生活の文化と知恵) 衣生活をつくる(被服の手入れと管理) 実習 実習 学習のまとめ						
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
評価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	生活を主体的に営むための技能を身につけている					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	家族や地域及社会における生活の中の課題を見つけ、解決策を構想する力を身につけている						40%
主体的に学習に取り組む態度	教科の知識習得や実習を通して、自分や家庭、地域の生活の充実・向上を図ろうとしている					レポート・スクーリング	20%
履修者へのメッセージ							
スクーリングでは、幅広い項目の中から抜粋した内容を学習していきます。レポートは丁寧に学習し、生活に係る様々な知識を会得できるよう取り組んでください。自分自身の現状を見直し、社会へも目を向け、自分の生活を自分でデザインする力を身につけてほしいと思います。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	保育基礎(2)	年次	2	添削指導	前期4回
使用教科書 (発行所)	保育基礎 (東京図書)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなど通じて、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。						
回	面接指導計画の概要						
1	第一章「子どもの保育」 ～保育の意義とは何か、子どもが育つ環境と保育の方法の基本～						
2	第二章「子どもの発達」 ～子どもの発達の特性の理解と乳幼児期の発達を知ろう～						
3	第三章「子どもの生活」 ～生活習慣の習得と健康に関する食事・衣服や寝具への理解を深める～						
4	第三章「子どもの生活」 ～子どもの病気の特徴と看護の方法の習得と救急処理～						
5	第四章「子どもの福祉」 ～児童福祉の歴史や法律と保育にみる児童観への理解を深める～						
6	第五章「子どもの文化」 ～文化と意義・文化を支える場への考えを深める～						
7	第五章「子どもの文化」 ～子どもと遊び・表現活動を知ろう～						
8	学習のまとめ						
9							
10							
11							
12							
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴および子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに関連した技術を身につける。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができる。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	保育の授業を通じて幼児教育に対する思いや考えを深めたりしながら、子どもたちが育つ環境の認識を深めようとしているとともに、保育者として、適切に関わろうとしている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
この科目では保育の基本的な内容を学習します。1回ごとの内容が広いので、スクーリングの前には必ず本文を読んで予習をしておきましょう。レポート作成は時間がかかりますので、早めにとりかかりましょう。スクーリング時には、必ず教科書・レポートを準備しておきましょう。子どもが好きな人、幼児教諭を目指している人、親になる準備として基本的な知識を身につけたい人などはぜひ履修してください。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	フードデザイン(2)	年次	2	添削指導	後期4回
使用教科書 (発行所)	フードデザイン(教育図書)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなど通じて、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担うために必要な資質・能力を育成することを目指す。						
回	面接指導計画の概要						
1	第三章「食品の選択と取り扱い」 ～食品の衛生と安全・調理の基本～						
2	実習① 手軽に主菜と簡単な副菜をつくろう						
3	第二章「栄養素と食事」 ～栄養素の消化・吸収働き・食品の特徴への理解を深める～						
4	第五章「各国料理とコーディネート」 ～料理の様式やテーブルコーディネートの習得～						
5	実習② テーブルコーディネートも工夫してみよう						
6	学習のまとめ						
7							
8							
9							
10							
11							
12							
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担うために合理的かつ創造的に解決する力を養う。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
この科目ではフードの基本的な内容を学習します。1回ごとの内容が広いので、スクーリングの前には必ず本文を読んで予習をしておきましょう。レポート作成は時間がかかりますので、早めにとりかかりましょう。スクーリング時には、必ず教科書・レポートを準備しておきましょう。後期に二度調理実習を行います。一回以上の実習への参加が履修条件になります。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	情報Ⅰ(2)	年次	2・3	添削指導	4
使用教科書 (発行所)		新編 情報Ⅰ(東京書籍)		学習書 (発行所)	なし		
科目の目標		情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。					
回	面接指導計画の概要						
1	受講のオリエンテーション・情報モラルについて						
2	情報で問題を解決する(理論編1章)						
3	情報を伝える①(理論編2章)						
4	情報を伝える②(理論編2章)						
5	コンピュータを活用する①(理論編3章)						
6	コンピュータを活用する②(理論編3章)						
7	データを活用する(理論編4章)						
8	前期テスト直前講習						
9							
10							
11							
12							
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	(ア)情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けているか。(イ)情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解しているか。(ウ)情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解しているか。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	(ア)目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えているか。(イ)情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルなどについて、それらの背景を科学的に捉え、考察しているか。(ウ)情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察しているか。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	「やってみよう・実習」に真剣に取り組んでいるか。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
教科書にたくさんのQRコードを利用した学習ができるようになっていきます。授業中には取り上げませんので、是非活用してください。又、授業中に関連した内容が章末資料で取り上げられている場合があります。学習を深化させてくれますので、是非読んでおきましょう。計算問題、簡単なプログラミング等も授業で行います課題レポートに直結しますので、積極的に授業に参加しましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	課題研究A(2)	年次	2・3	添削指導	4
使用教科書 (発行所)	なし			学習書 (発行所)	令和6年度全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 基礎から3級(実教)		
科目の目標	情報科の科目で学習することの大きな目的は、「情報リテラシー能力」を養い、「コンピュータ思考力」と「情報表現力」を養うことにあります。特に、問題を自ら見つけ、解決する態度が必要になります。この課題研究Aでは、文書処理ソフトウェア(Word2016)を取り上げ、全商ビジネス文書実務検定3級に対応する能力をを養うことを目的とします。						
回	面接指導計画の概要						
1	課題研究Aでは実習がととても大切な位置を占めます。面接指導を全て 受講する事がのぞましいです。						
2	受講のオリエンテーション・文書処理ソフトウェア入門・タッチタイピング(添削指導No1と関連)						
3	検定試験、筆記問題について。タイピング練習・練習課題作成						
4	タイピング練習・提出課題作成						
5	タイピング練習・提出課題作成						
6	後半レポートには授業中の完成課題として作成する実技課題があります。						
7	後半レポートには授業中の完成課題として作成する実技課題があります。						
8	後半レポートには授業中の完成課題として作成する実技課題があります。						
9	後半レポートには授業中の完成課題として作成する実技課題があります。						
10	後半レポートには授業中の完成課題として作成する実技課題があります。						
11	前期テスト直前講習						
12							
評 価							
評価の観点					評価の方法		割合
知識・技能	全国商業高等学校協会主催ビジネス文書実務検定(筆記)の問題から				単位認定試験		40%
思考・判断・表現	全国商業高等学校協会主催ビジネス文書実務検定(実技)の問題から						40%
主体的に学習に取り組む態度	「実習」に真剣に取り組む、課題を完成させたか。				レポート・スクーリング		20%
履修者へのメッセージ							
この課題研究Aでは、全国商業高等学校協会主催ビジネス文書実務検定(筆記・実技)に対応する講座にしたいと考えています。3級は筆記試験・実技試験があります。6月と11月に実施します。 コンピュータに興味のある人、キャリアアップを考えている人にはお勧めな講座です。ただし、検定取得は容易ではありません。家庭での学習量・練習量が合否を決めます。							

通信制課程 授業計画表

年度	R6	教科「科目」(単位数)	課題研究B(2)	年次	2・3	添削指導	4
使用教科書 (発行所)	なし		学習書 (発行所)	学習と検定Excelで学ぶ 全商情報処理検定テキスト3級(実教)			
科目の目標	情報科の科目で学習することの大きな目的は、「情報リテラシー能力」を養い、「コンピュータ思考力」と「情報表現力」を養うことにあります。特に、問題を自ら見つけ、解決する態度が必要になります。この課題研究Bでは、前半レポートでハードウェアに関する基礎知識、ソフトウェアに関する基礎知識、ネットワークに関する基礎知識を、後半はワークシート作成を中心に全商情報処理検定3級に対応する能力を養うことを目的とします。						
回	面接指導計画の概要						
	・タイピング初心者にとってはExcelワークシート作成は困難です。タイピングが10分間に300文字以上入力できることが望ましいです。まず課題研究Aを履修した後に、この科目を履修することが望ましいです。 ・課題研究Bでは実習が大切な位置を占めます。面接指導(スクーリング)を全て受講する事が望ましいです。 ・2回目以降、必ず実習を行い、レポートの内容に沿った実習課題に取り組みます。その課題を評価します。						
1	受講のオリエンテーション・情報モラルについて						
2	情報処理技術検定試験(筆記) ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク・情報モラルに関する基礎知識 (添削指導No1と関連)						
3	表計算ソフトウェア実習						
4	表計算ソフトウェア実習						
5	表計算ソフトウェア実習						
6	表計算ソフトウェア実習						
7	表計算ソフトウェア実習						
8	後期テスト直前講習						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	学習と検定Excelで学ぶ全商情報処理検定テキスト3級/筆記試験(実教)			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	学習と検定Excelで学ぶ全商情報処理検定テキスト3級/実技試験(実教)					40%	
主体的に学習に取り組む態度	「実習」に真剣に取り組んでいるか。実習課題が仕上がっているか。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
この課題研究Bでは多少専門的な内容に踏み込み、全国商業高等学校協会主催 情報処理検定3級に対応する講座にしたいと考えています。3級は筆記試験のみで9月と1月に実施します。 コンピュータに興味のある人、キャリアアップを考えている人にはお勧めな講座です。ただし、検定取得は容易ではありません。家庭での学習量が合否を決めます。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	社会福祉基礎(2)	年次	2・3	添削指導	前期4回
使用教科書 (発行所)	社会福祉基礎(実教出版)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	社会福祉に関する基本的な知識を習得し、現代社会における社会福祉の意義や役割を学ぶ科目です。この授業では、まず「福祉」に興味・関心を持ってもらうことを目標とします。その後、社会福祉の日本の歴史、諸外国の歴史、背景、実態、展望についての知識を身につけます。						
回	面接指導計画の概要						
1	①社会福祉の理念と意義						
2	②社会福祉の歴史と次代の展望(諸外国における社会福祉)						
3	③社会福祉の歴史と次代の展望(日本における社会福祉)						
4	④社会保障制度の意義と役割、子ども家庭福祉						
5	⑤障害者福祉、高齢者福祉と介護保険制度						
6	⑥生活支援のための公的扶助、国民の生活を支える社会保障制度						
7	⑦人間関係とコミュニケーション、地域福祉の進展と地域の将来						
8	⑧ 全体のまとめ(テスト対策)						
9							
10							
11							
12							
評価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	社会福祉の歴史や課題に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割を理解しているか。					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	社会福祉に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、社会福祉の現状について多面的・多角的に考察しているか。グラフや図から社会福祉の抱える問題を読み取り、自分の考えを表現できるか。						40%
主体的に学習に取り組む態度	社会福祉に関する諸問題について関心を持ち、これからの社会福祉に対して意欲的に取り組むとともに創造的、実践的な態度を身に付けているか。					レポート・スクーリング	20%
履修者へのメッセージ							
自分の身の周りにお年寄りや障がいがある方、子どもはいないでしょうか。「福祉」とは「すべての人々の生活の幸せ」と考えられています。高齢者や障がいのある方の気持ちに寄り添い、少しでも理解ができるように様々な視点から授業を展開します。これからは、「福祉」が必要な時代になってきます。この授業では、福祉サービスや法律について身近なところから学んでいきます。この授業で、福祉の情報を共有して、周りにいる人の力になってみませんか。少しでも「福祉」に興味・関心を持っている人は、ぜひ一緒に勉強しましょう。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	生活支援技術(2)	年次	2・3	添削指導	後期4回
使用教科書 (発行所)	生活支援技術(実教出版)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通じて、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するための必要な基礎的な知識を学びます。						
回	面接指導計画の概要						
1	生活支援の理解						
2	自立に向けた生活支援技術						
3・4	自立に向けた生活支援技術(各介助体験) 【居住環境の整備、家事の支援、身じたくの支援、移動の支援等】						
5	終末期・緊急時の介護						
6・7	自立のに向けた生活支援技術(各介助体験) 【食事の支援、入浴・清潔保持の支援、睡眠・休養の支援、レクリエーションの支援】						
8	全体のまとめ(テスト対策)						
※ 授業がある日には動きやすい服装、ズボンでスクーリングに参加をしてください。							
※ 2時間授業(③④又は⑥⑦)は2回行いますが、必ずどちらか1回は参加してください。							
2回とも参加できない場合は、単位を認めることができません。							
評 価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	福祉の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			レポート・スクーリング		20%	
履修者へのメッセージ							
障がいがある人や、高齢者と普段、話をする機会があるでしょうか。障がいがある、高齢というため施設で生活する人もいますし、家で暮らしている人もいます。そのような方々が生活するとき、周りにいる私たちは介護や支援の知識が必要になってきます。介護・支援をする時の心構えや知識・実技を通して基礎的な介護技術を身につけていきましょう。							

通信制課程 授業計画表

年度	R 6	教科「科目」(単位数)	ビジネス法規(2)	年次	2・3年次	添削指導	後期4回
使用教科書 (発行所)	ビジネス法規(東京法令出版)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	日常生活や企業における取引などに関する基礎的・基本的な法を身に付けろ。法やルールへの遵守の大切さと、法の基本的かつ応用的なことが生かせる態度を育てる。						
回	面接指導計画の概要						
1	日常生活と法・ガイダンス 添削指導NO1と関連 法の意義 社会生活と社会規範 日常生活で、規範意識の日						
2	日常生活と法・ガイダンス 添削指導NO1と関連 法の役割 ビジネス経済と法 役割 道徳の役割と法の役割の違い						
3	権利と義務・人間の一生 添削指導NO2と関連 権利と義務の意義・主体 権利能力の終期						
4	制限行為能力 添削指導NO2と関連 権利と義務の意義・主体 人間の一生と法						
5	企業責任と法 添削指導NO3と関連 法令遵守						
6	企業責任と法 添削指導NO3と関連 労働者の保証 労働基本法・労働基準法						
7	企業責任と法 添削指導NO4と関連 消費者の保証 消費者基本法・働き方改革						
8	紛争の予防・家庭生活と法 添削指導NO4と関連 紛争の予防 家庭生活と法・試験対策						
9							
10							
11							
12							
評価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	日常生活や企業における取引などに関する基礎的・基本的な法を身に付け、法の基本的かつ応用的なことが生かせるかを理解させる。					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	日常生活や企業における取引などに関する諸問題の解決を法的に目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的から発展的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。						40%
主体的に学習に取り組む態度	日常生活や企業における取引などに関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を法的に把握する実践的な態度や探求心を身に付けているか。					レポート・スクリーニング	20%
履修者へのメッセージ							
学んだ法の基礎知識をいかに将来生かせるかです。したがって、高等学校で自分の将来を考え正しい職業観、勤労意欲、社会で役立つ法律・マナーを知り身に付けられます。また、身近なテレビ・新聞記事などの事例をあげ学習もします。 ※教科書・レポート筆記用具は必ず持参してください。							

通信制課程 授業計画表

年度	R 6	教科「科目」(単位数)	ビジネス基礎(2)	年次	2・3年次	添削指導	前期4回
使用教科書 (発行所)	ビジネス基礎(東京法令出版)		学習書 (発行所)	なし			
科目の目標	商業を学ぶ目的は、ビジネス仕事をする心構えの基礎・基本能力を養う事です。ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力と身に付けさせる事を目指します。						
回	面接指導計画の概要						
1	なぜ、商業を学習するのか。添削指導NO1と関連						
2	経済活動とビジネス。添削指導NO2と関連 経済活動と経済の仕組み ビジネスに対する心構えと理						
3	経済活動とビジネス。添削指導NO2と関連 経済活動と経済の仕組み ビジネスに対する心構えと理						
4	ビジネスと流通活動。添削指導NO3と関連 経済活動と流通						
5	企業活動とビジネスの担当者。添削指導NO3と関連 企業組織・ビジネスの担当者						
6	ビジネスと売買取引。添削指導NO4と関連 売買取引の方法・代金決済の方法						
7	ビジネスと売買取引。添削指導NO4と関連 売買取引の方法・代金決済の方法						
8	本題のまとめ・試験対策講座						
9							
10							
11							
12							
評価							
評価の観点						評価の方法	割合
知識・技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。					単位認定試験	40%
思考・判断・表現	ビジネスをはじめとして様々な知識・技能を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を市場の動向、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。						40%
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員としての役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。					レポート・スクリーニング	20%
履修者へのメッセージ							
ビジネス基礎は商業の科目ですが、商業を学ぶ上での基礎の基礎の部分です。専門性はそんなに高くありません。また、実際に従業員として、アルバイトとして働いている生徒も少なくありません。自分の行っている仕事全体としてどういう意味があるか、これからどのように取り組めばもっと職業人として実績を上げられるのかなど職業に関するヒントを与えてくれる科目です。仕事をするのにどのような資格が必要かというお話もします。 ※教科書・レポート・筆記用具は必ず持参してください。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	総合的な探究の時間A(各1)	年次	1	添削指導	前期2回 後期2回
使用教科書 (発行所)	教師作成プリント		学習書 (発行所)				
科目の目標	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を身に付ける。本校の教育理念を理解する。						
回	面接指導計画の概要						
前期	総合A 社会生活の仕組みと将来設計 1 過去の自分を振り返る 2 「キャリア」ってなんだろう？ 人生の先輩の声を聞いてみよう 3 「働く」ってどういうことだろう？ 自分史を作ってみよう！！ 4 学習のまとめ						
後期	総合A キリスト教について 本校の教育理念を学習します ※新入生必修科目 1 旧約聖書と新約聖書の誕生 2 イエスの活動と教え 3 新約聖書の中のたとえ話 4 学習のまとめ						
評 価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	探究の課程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	実社会や実生活と自己の関わりから問いを見だし、情報を集め、整理分析して、まとめ・表現している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、よりよい社会を実現しようとしている。			レポート・スクーリング・		20%	
履修者へのメッセージ							
総合的な探究の時間Aでは、「社会生活のしくみと将来設計」について探究します。「過去の自分自身を振り返る」という観点から、社会生活での基礎的な知識を学び、人生設計について学習します。後期は、本校の教育理念を「聖書」という観点から学びます。新入生は後期総合的な探究の時間は必修となります。							

年度	R6	教科「科目」(単位数)	総合的な探究の時間B(1)	年次	2	添削指導	前期2回 後期2回
使用教科書 (発行所)	教師作成プリント		学習書 (発行所)				
科目の目標	探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を身に付ける。社会の役に立てる人になる。						
回	面接指導計画の概要						
前期 第1回	進路に向かって 面接時の基本知識とマナー講座 ・仕事とは何か考える。求人票の見方について学ぶ。						
第2回	・バイトについて学ぶ。ブラックバイトとは何か考える。						
第3回	・面接の所作を身につける。						
第4回	・面接に向けての準備について学ぶ。 ・学習のまとめとテスト対策						
後期 第1回	ボランティア活動の意義と実践 ・あなたはどのように社会の役に立てるか？ 探究のテーマ『社会参加』						
第2回	〃						
第3回	・あなたは将来どのような仕事を選択するのか？ 探究のテーマ『仕事』						
第4回	〃 ・学習のまとめとテスト対策						
平日ボランティア	※平日にボランティア活動に参加しないと単位認定されません。 虹ヶ浜清掃活動またはミカン収穫作業の手伝い(予定)						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	探究の課程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付けている。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	実社会や実生活と自己の関わりから問いを見だし、情報を集め、整理分析して、まとめ・表現している。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、よりよい社会を実現しようとしている。			レポート・スクーリング・校外学習		20%	
履修者へのメッセージ							
総合的な探究の時間は、3年間で3単位以上の修得が必要な科目です。様々なテーマについて学習を進めていきます。総合的な探究の時間Bの後期は、平日にボランティア活動があります(虹ヶ浜清掃活動またはミカン収穫作業のお手伝い)。どちらかのボランティア活動には必ず参加してください。不参加の場合は単位認定されません。							

通信制課程 授業計画表

年度	R 6	教科「科目」(単位数)	総合的な探究の時間総合C (1)	年次	3年次	添削指導	前期 2 回 後期 2 回
使用教科書 (発行所)	冠婚葬祭マナー辞典 プリントと視聴等		学習書 (発行所)	主婦の友社			
科目の目標	社会生活の中で必要な知識(法律)や教養を身につけ、社会人としての資質を養う。学び方やものの考え方を身につけ、問題解決能力や社会生活にたいして主体的、創造的に取り組む態度を身につける。						
回	面接指導計画の概要						
前期							
1	結婚式と葬儀のマナー 添削指導NO1と関連 冠婚葬祭の意味 のし袋の 意味と書き方結婚式まで						
2	人生の祝い事 添削指導NO1と関連 妊娠から出産まで 出産から後から成人まで						
3	年中行事と意味 添削指導NO2と関連 年中行事を知る 暮らしを彩る四季等						
4	日常生活のおつきあいマナー 添削指導NO2と関連 食事のマナーを知ろう						
後期							
1	日常生活と法・ルール・挨拶 添削指導NO1と関連 社会生活と社会規範 日常生活で、規範意識の日						
2	日常生活と法 添削指導NO1と関連 会社組織の役割 年齢別法令を理解する						
3	権利と義務 添削指導NO2と関連 国民の三大義務と税金 国税と地方税						
4	社会保険と労働 社会保険の種類と意義 労働の基本						
評価							
評価の観点				評価の方法		割合	
知識・技能	日常生活における一般常識に関する基礎的・基本的な常識(法律等)を身に付け、社会性の基本的かつ応用的なことが生かせるかを理解させる。			単位認定試験		40%	
思考・判断・表現	日常生活などの基礎的・基本的から発展的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。					40%	
主体的に学習に取り組む態度	日常生活などに関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、日常生活についての一般常識・法を把握して社会人としての実践的な態度や探求心を身に付けているか。			レポート・スクリーニング		20%	
履修者へのメッセージ							
学んだ一般常識やルールの基礎知識をいかに将来生かせるかです。したがって、高等学校で自分の将来を考え正しい日常生活で役立つ常識・マナーを知り身に付けられます。また、パワーポイントや身近なテレビ・新聞記事などの事例をあげ学習もします。 ※教科書・レポート筆記用具は必ず持参してください。							